

経営比較分析表（平成29年度決算）

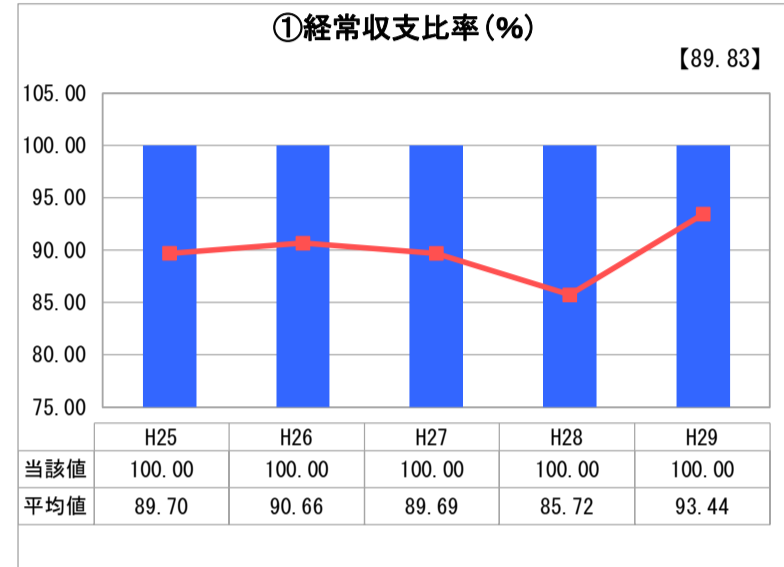
大阪府 枚方市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	100.00	0.01	-	3,132

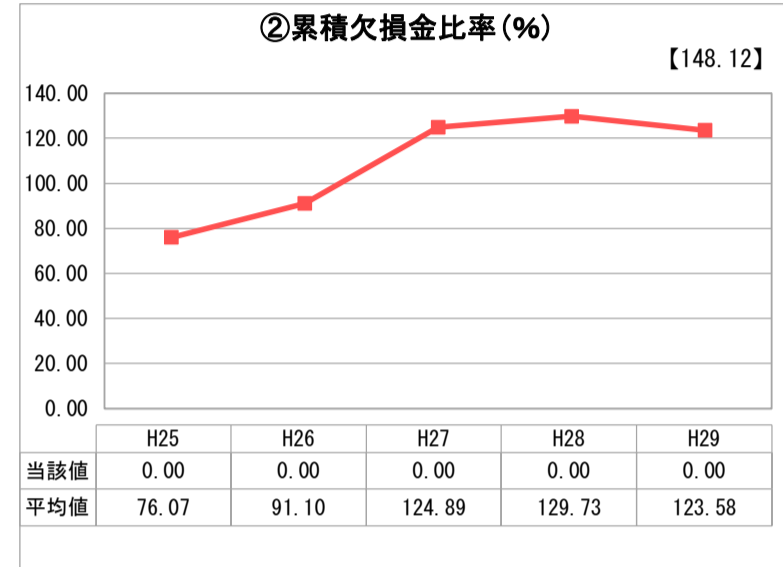
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
403,989	65.12	6,203.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
25	12.64	1.98

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

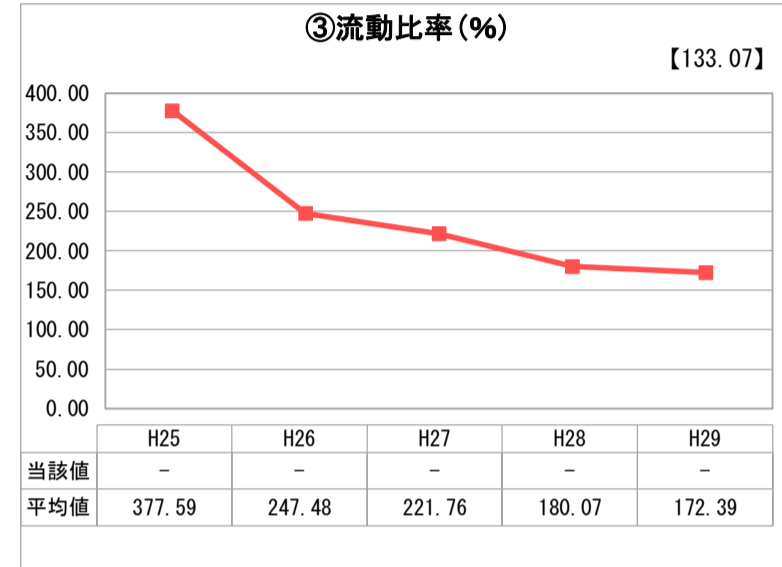
1. 経営の健全性・効率性



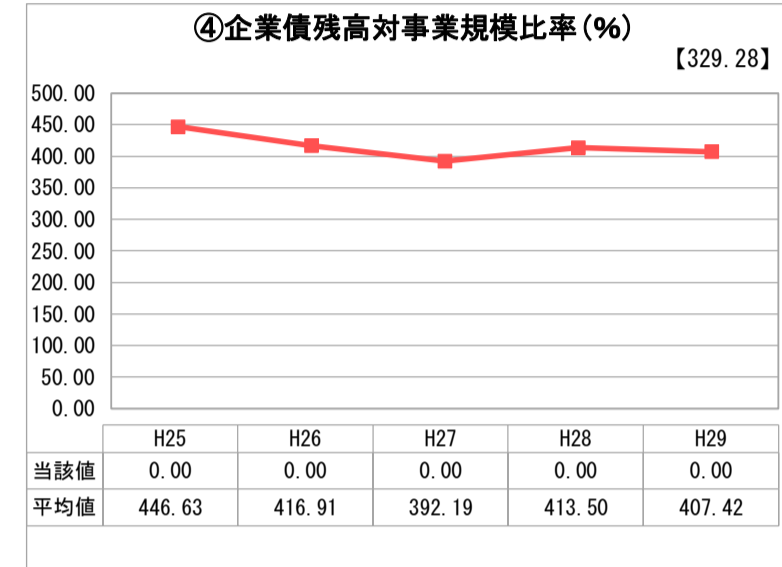
「経常損益」



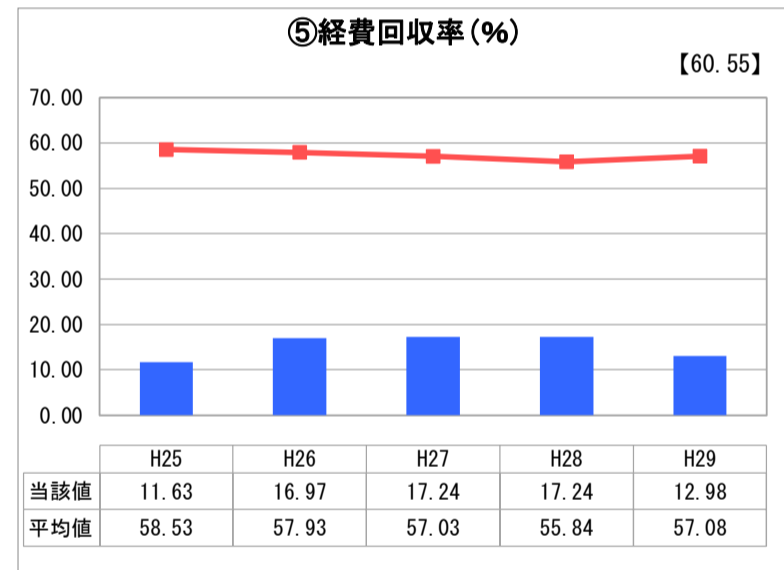
「累積欠損」



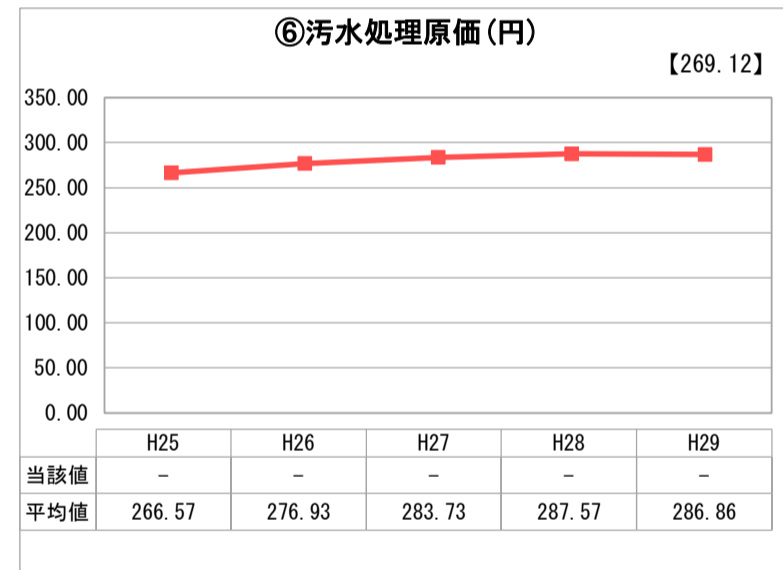
「支払能力」



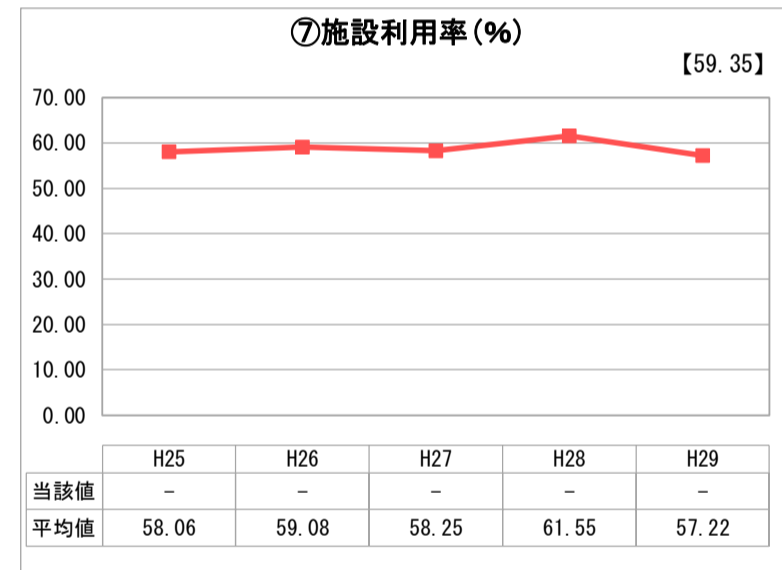
「債務残高」



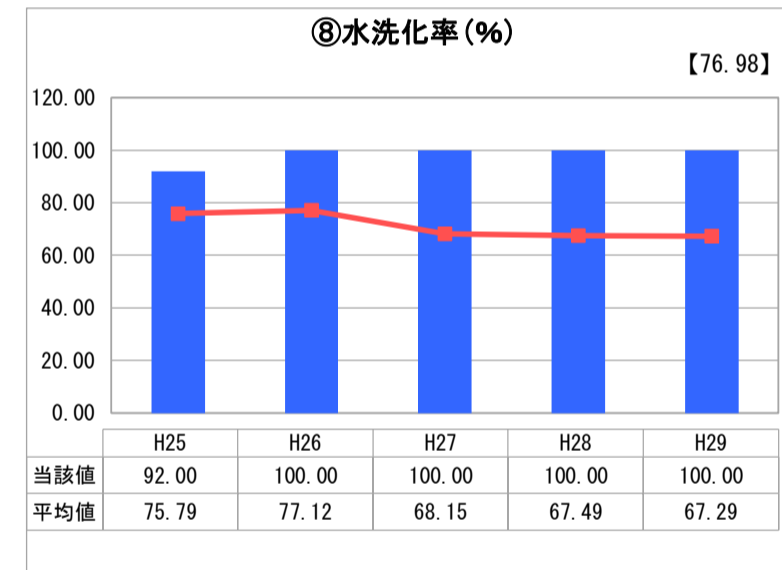
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

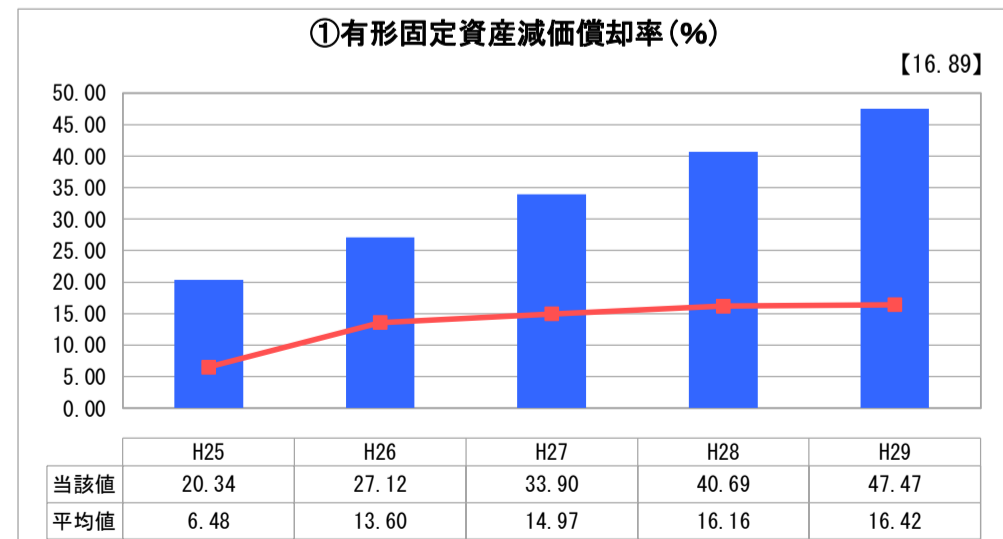


「施設の効率性」

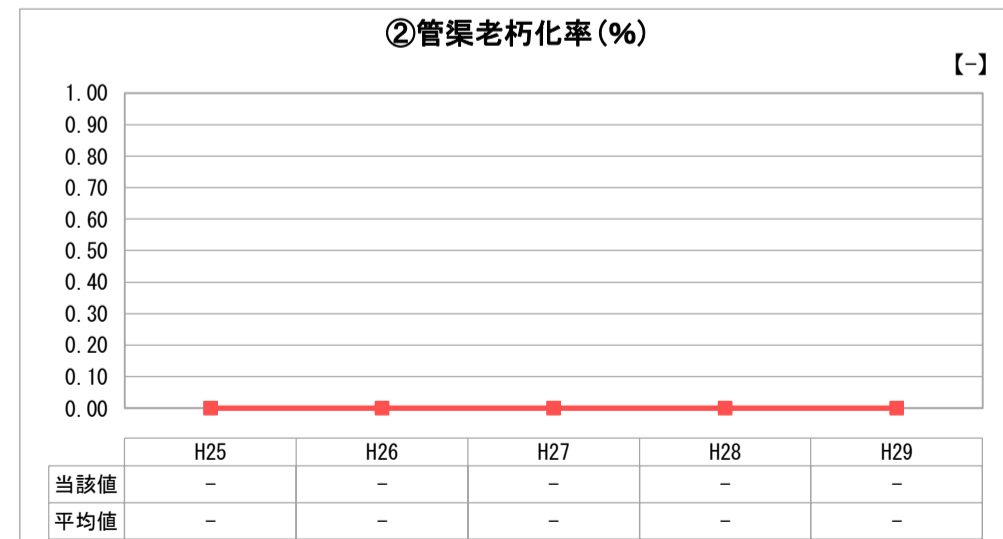


「使用料対象の捕捉」

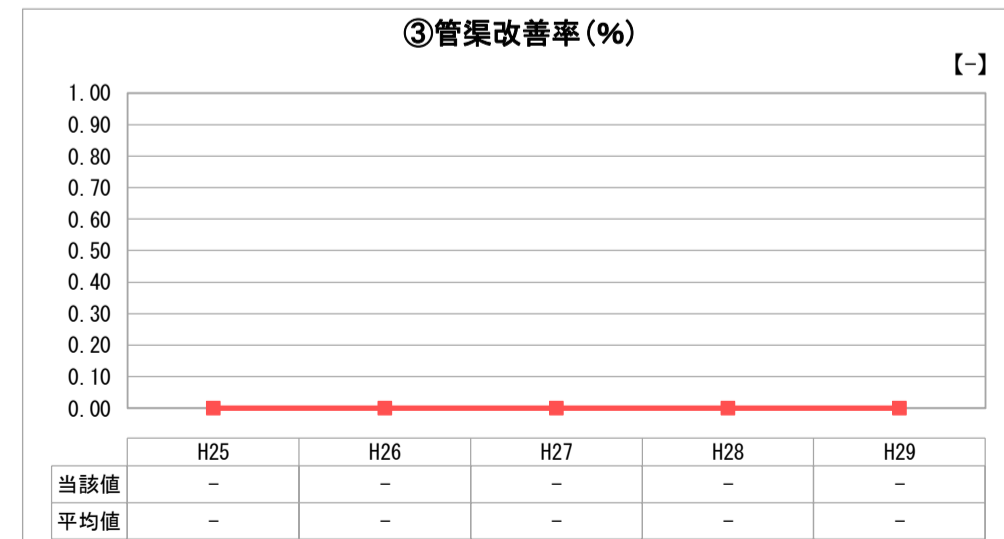
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%で収支均衡となっているのは、市の補助金などの収入で収支の均衡を保っているためです。
 流動比率については、未払金（流動負債）が発生していないため、グラフには表れていません。
 企業債残高については、整備時に企業債を発行していないため、グラフには表れていません。
 汚水処理原価については、使用料金を定額制としており、処理設備にメーター設置していないため、年間有収水量が計測不可により、当該値を計上していません。
 施設利用率については、処理施設を保有していないため、グラフには表れていません。

2. 老朽化の状況について

平成18年度～平成19年度に設置したため、現状で老朽化に対する対応が必要な施設はありません。

全体総括

本市の浄化槽事業は、平成16年9月に「枚方市生活排水処理基本計画」が策定され、公共下水道区域と合併浄化槽区域の区分けにより、市域の生活排水を適切に処理することを目的として開始しています。
 平成18年度～平成19年度に計10基を設置しましたが、現在も10基のみであり、経営の健全性・効率性については、公共下水道と合わせて考えています。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
 ※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。